

会議で出された 竹富島の“よいところ”



人に迷惑をかけず、自分で できるだけやろうという独立心 が竹富島の気質である

- 高齢者の一人住まいでも、人のお世話にならずに、自分でちゃんと生活していこうとしている
- 高齢者でも、公民館や伝統行事への賦課金など島のための費用負担を一生懸命している
- 高齢者が生涯現役で仕事ができる環境がある など

島が美しい

- 清潔観念が強く、掃除をよくしている島である
- 竹富町の島の中で最もきれいな島である など

世代を超えて島民が 一致団結する風土がある

- 月例会は顔見会になっていて、島の人がどのように過ごしているか知る機会になっている
- 島民の協力活動(伝統行事、島の掃除)が多く、互いによく知り合っている
- うつぶみのこころを子供たちに伝え、子育てをしている など

島の未来は明るい

- 子供が多い
- 青年会の会員が増えており、若い人の活動にも可能性がある
- IターンやUターンが多い など

人と人とのつながりが強い

- 人と人とのつながりが強く、気を遣わずに先輩とつきあえる
- 先輩が後輩を育てる文化がある
- 島の人は世話好きで人なつこい
- 子供たちの夏休み前には、島の司が集まって安全祈願をしてくれたり、夏祭りには島の高齢者が多く参加するなど、島中の人で子供たちを見守り育てている など

リーダーシップと協調性が高い

- 地区組織活動が活発に行われている
- 各集落で行われている月例会は、竹富町でも唯一無二の活動といえる
- 行政に意見ができるほど住民の主体性が高い など

竹富島の“よいところ”を医療・介護の課題解決に
生かすために、住民会議を継続します！



住民会議のメンバーを確定します！

希望される方は公民館長へ連絡をお願いします。
推薦された方は住民会議への参加をお願いします。

地域づくりに
関心がある方の
参加、大歓迎！

会議は毎月
1回、開催予定



竹富島 暮らし通信



竹富島を
モデルとして

高齢者が安心して住み続ける ための活動が始まりました！

①事業の名前は？

「島しょ・へき地の地域
包括ケアシステム構築
支援事業」と言います。

②何をめざしているの？

住民一人ひとりが知恵を出し合い、支え合い、
いつまでも安心と希望をもって暮らし続けられる
地域づくりをめざしています。

③誰が、どのようにやるの？

住民の代表と役場、沖縄県、県立看護大学が、「住民会議」で話し合ったことを、
住民のみなさんと一緒に活動します。活動の主体は住民のみなさまです。

なぜ竹富島がモデルになったのか？

県立看護大学では21島の島ごとに統計資料を整理しました。

大学の調査から竹富島は「若い人の多い島」、「安全な島」、「美しいまちなみ・残したい自然がある」、「祭りで島民のコミュニケーションが保たれている」、「島民同士で助け合っている」「月例会で情報共有されている」などのよいところが見えました。

しかし、介護保険の利用状況では、「要介護認定率が低い」、「40～64歳の要介護者が0人」という結果から、竹富島は『**健康な人が多い島なのか？**』、それとも『**介護が必要になると暮らせない島なのか？**』という疑問があがりました。

そこで、島のリーダーたちと竹富島の医療と介護の現状と課題について話し合いました。高齢者の医療と介護に関する課題として、「一人住まいの方の見守りが十分にできない」、「地域の人介護に疲れている」、「高齢者の泊まりのサービスが島で利用できず困っている」などの意見が出されました。



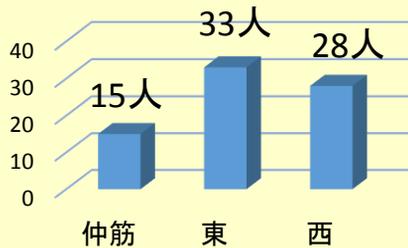
調査結果と伝統を大切にしたいという思いが全ての世代で共有されているという竹富島のよいところに触れた経緯より、竹富島をモデル島に選定しました

竹富島の高齢者の医療と介護の希望を取り入れるために、
高齢者のアンケートから活動を開始することになりました！

医療・介護についてのアンケート結果！

* 記載しているアンケート結果は一部です

65歳以上の高齢者103人中76人が回答してくれました。



質問1: 医療や介護で困った経験がありますか？



困った体験としては、「医療が受けにくい」や「介護サービスが不足している」という島の特徴からくる課題がありました。

困ったとき、どのように対処されてきたのですか？

● 独立の精神・自立の精神を発揮！

- 「悪化しないように健康維持を工夫している」
- 「生活の智恵を活かして対処した」
- 「我慢して続けるしかない」
- 「体調不良があっても受診ができる朝まで辛抱した」

● 家族の支えや島の人的資源を活用！

- 「家族の介助を受けている」
- 「家族で協力して対応した」
- 「家族や消防団、診療所と一緒に対応した」
- 「介護サービスを利用した」

「自分の強さ」
「家族の強さ」
「島の強さ」を
発揮してたくましく
対処されていました。

医療・介護については、半数以上の方が困った経験があり、竹富島の人々の持つ“独立の精神”や“支え合いの強み”を発揮して対処されていましたが、安心して住み続けるためには、いくつかの課題がありました。



質問2:現在の介護サービス (さみん、まーまーず、ほほえみの会) について知っていますか?

さみんを 知っている人	まーまーずを 知っている人	ほほえみの会を 知っている人
55人	31人	66人

(回答者76人)

質問3:ゆくい処を知っていますか?



<ご意見・ご感想>

- 楽しみの場になっている、生活の張りになる
- よく世話してくれる、必要なサービスである
- 要介護認定を受けると利用できる活動が変わり、通えなくなって残念。一緒に活動したい
- 活動内容や頻度を充実してほしい
- 若い世代のボランティアや介護従事者が必要
- 島の支え合い活動であるが、支え合いの負担が大きい など

<ご意見・ご感想>

- 介護サービスの拠点になってほしい
- 宿泊サービスの提供を期待している
- 伝承の場になってほしい
- 高齢者の活動の場になってほしい
- 憩いの場として利用したい
- 活用方法について知りたい
- 設備(風呂場など)に課題がある など

現在の介護サービスについては、活動を良く評価する意見がある一方で、健康状態にかかわらず、活動を一緒にしたいという高齢者の声が聞かれました。

ゆくい処については、皆さんより多くの要望が寄せられました！
高齢者の活動の場が整備されたことで、高齢者の期待が伝わります。

第1回住民会議を開催しました!

7月30日に21名が参加し、アンケート結果を共有しました。
課題解決に向けて、まずは竹富島の“よいところ”について話し合いました。



第1回住民会議の 参加メンバー

- | | | |
|-------|------|--------|
| 上勢頭篤 | 島仲信秀 | 上勢頭美穂子 |
| 前本隆一 | 辺土名孝 | 大盛聰 |
| 松竹昇助 | 新盛桂子 | 黒島大輔 |
| 野原吉雄 | 小浜栄子 | 真地美由紀 |
| 前本賢二郎 | 細原京子 | 華山麻美 |
| 新田長史 | 高橋裕子 | 大湾明美 |
| 内盛正基 | 高橋智彦 | 田場由紀 |